

ビタミン剤について

一般的にビタミン類は食品にも多く含まれており、食事により補給されているはずなのです。豚肉にはビタミンB1が、ブロッコリーにはビタミンC・K等が多く含まれていることは有名です。

しかし、過度のダイエットをはじめ、十分な食事がとれない場合や偏食等食生活の乱れによりビタミン不足に陥ることがあります。そして身体の中のビタミンが不足すると様々な障害があらわれます。

そのようなときに、医療機関ではビタミン剤を処方しビタミン不足を補い、神経や皮膚などの諸症状の改善を行います。

昨今、この処方薬であるビタミン剤が出荷調整等で入手困難な状態となっており、苦慮している状態が続いております。多種多様の薬剤が不足していますが、まさかビタミン剤までが、と驚きです。

幸いドラッグストアで扱われているOTC薬やサプリメントは店頭に並んでいるようです。TVコマーシャルやSNSまたは様々な媒体でこのビタミンに関しては広く広告されており、疲れをやわらげてほしい方々にとっては「試してみようか?」とそそられるものです。

ビタミン剤についてご承知のことと思いますが、一言説明を。

ビタミン剤には水に溶けやすい(水溶性)ものと油に溶けやすいもの(脂溶性)の2種類があります。

水溶性ビタミンには、ビタミンB1(チアミン)・B2(リボフラビン)・B6(ピリドキサル、ピリドキサミン、ピリドキシン)・ニコチン酸・パントテン酸・ビタミンB12(シアノコバラミン、ヒドロキシコバラミン)・ビタミンC(アスコルビン酸)があります。また、ビオチンはビタミンB7、葉酸はビタミンB9ともよばれビタミンB群に分類されております。

一方脂溶性ビタミンには、ビタミンA(レチノール、レチナール、レチノイン酸)・D(コレカルシフェロール、エルゴカルシフェロール)・E(トコフェロール、トコトリエール)・K(フィロキノン、メナキノン)があります。

以下に、有名なビタミン剤と保険薬の比較表を示しました。

入っている中身(成分)が微妙に異なっております。保険薬の配合剤とも多少の差異が認められます。

商品名 成分	アリナミン A	アリナミン EX プラス	アリナミン EX プラス α	ノイロピタン 配合錠	25mg アリナミン F 糖衣錠
フルスルチアミン (ビタミン B1 誘導体) として 【フルスルチアミン塩酸塩】	100mg 【109.16mg】	100mg 【109.16mg】	100mg 【109.16mg】	75mg (注1)	100mg (注2) 【111.6mg】
ピリドキシン塩酸塩 (ビタミン B6)	20mg	100mg	100mg	120mg	-
シアノコバラミン (ビタミン B12)	60 μg	1,500 μg	1,500 μg	750 μg	-
トコフェロールコハク酸エステルカルシウム (ビタミン E コハク酸エステルカルシウム) 【dl-α-トコフェロールコハク酸エステルとして】	-	103.58mg 【100mg】	103.58mg 【100mg】	-	-
リボフラビン (ビタミン B2)	12mg	-	10mg	7.5mg	-
パントテン酸カルシウム	15mg	30mg	30mg	-	-
ガンマーオリザノール	-	10mg	10mg	-	-

*3錠 (15歳以上の1日最大服用量) 中の成分含量

(注1) *オクトチアミン (ビタミン B1 誘導体) (注2) 4錠あたり

メーカー希望価格等

120錠	3,069 円(税抜価格 2,790 円)	4,488 円(税抜価格 4,080 円)	オープン価格	薬価は1錠あたり 5.8 円	薬価は1錠あたり 5.9 円
180錠	4,455 円(税抜価格 4,050 円)	6,578 円(税抜価格 5,980 円)	オープン価格		
270錠	6,490 円(税抜価格 5,900 円)	8,778 円(税抜価格 7,980 円)	オープン価格		

アリナミン製薬株式会社ホームページおよび医薬品添付文書より引用

ちなみに、アリナミン A と他のアリナミン錠剤 (EX プラス、EX プラス α 、メディカルゴールド) の違いは何ですか?との回答は、

アリナミン EX シリーズは、疲れが、目・肩・腰の症状としてあらわれているときにおすすめの製品で、一方、アリナミン A はカラダがだるい・重いといった疲れを感じている方におすすめしているとのことです。また、アリナミン A は 7 歳以上の子供から服用できる特徴があるとのことです。(こちらの文面もアリナミン製薬株式会社 WEB から引用いたしました。)

★編集後記

先月お盆休みがあり、今回はふた月分合併号でした。

暑い夏の日々、疲れもピーク続きの時期です。新型コロナウイルス感染症だけでなくインフルエンザウイルスも悪さをしてくれています。疲れがたまると免疫が落ち込み、感染症等々病気になりがちです。栄養ドリンクはじめビタミン剤をうまく利用して体調管理に努めたいものです。また、必要な感染予防対策は継続していただきたいです。



薬剤科 野村明生